

令和3年度 千葉県立千葉中学校 学校目標及び自己評価

資料No6

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組、手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 <small>(職は職員アンケート、保は保護者アンケート、生は生徒アンケート)</small>			アンケート回答率			自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
				肯定的 回答	否定的 回答	わから ない等	肯定的 回答	否定的 回答	わから ない等		
学校経営	1 教育目標の具現化を目指して、校内組織の運営や教育環境の活用をより効果的にを行い、創意工夫に富む学校運営にあたる。	① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。 ② 中高一貫教育推進委員会を書くとして、千葉高校との指導の接続のあり方を工夫し、中高一貫教育の質の向上に努める。中学生・高校生の行事や授業での行き来を続けるとともに、部活動での中高合同などさらに組織的	① 職員アンケートの結果及び実施状況の把握	職 ① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。	52.9%	47.1%	0.0%	① 中高一貫教育推進ワーキンググループや、感染症対策を考慮する上で、既存の時間的制約の中でより多くの議題をより効率的に協議する必要性を感じた職員が増えたと考えられる。	① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。 ② 今年度発足した「中高一貫教育推進ワーキンググループ」を中心に、スクールポリシーの作成と職員間での共通認識を図る。部活動では、中高の時間割や日課の違いに留意しつつ、可能な限り、課外活動での生徒間交流を増やし、中高合同の実感を生徒に持たせていく。 ③ 生徒会によるボランティア活動の宣伝を強化し生徒の参加を活発にしていける必要がある。また、学校周辺地域の文化的施設での学習機会を教科指導と連携させた体系的な学びのある学習活動が行えるようにする。		
			② 職員アンケートの結果	職 ② 高等学校との連携を密に行い、よりよい中高一貫教育の実現に努める。	64.7%	35.3%	0.0%	② 昨年度より、国語科と社会科での高校本務職員による授業が年間に設定された。また、昨年度より進路学習の一環として始まった、高校本務職員による体験授業も定着し始めた。学校行事では、昨年度より始まった「中高合同体育祭」を本年度も実施したことで、中高合同での学校行事運営が前進したと考える職員が増えたと考えられる。その一方で、部活動を始めた生徒間の交流という点では十分に達成したとは言えない。			
		③ 保護者・地域へ本校の教育目標や教育活動を発信し、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。	職 ③ 保護者・地域との連携を密にして、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。 生 ② 学校周辺地域(文化的施設)での学習や人々とのふれあい 保 ① 学校は近隣地域との交流等を通して、開かれた学校づくりに努めている。 保 ① 保護者への連絡や、保護者面談は適切に行われている。 保 ② 学校周辺地域(文化的施設)での学習や人々とのふれあい	64.7%	35.3%	0.0%	③ 今年度は、ボランティア体験の対象を3学年生と80名から、生徒会企画の全校生徒内の希望者を募る形式へと変えた。今までの対象生徒を全員参加を筋とする活動から変わったことで、参加生徒は80名より少ない結果となった。千葉県立中央図書館の出張授業や千葉県立中央博物館への校外学習などは例年同様実施されたが、学校周辺地域(文化的施設)での学習機会をさらに充実させる必要があることがわかる。				
		④ 知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業や国内外の研修の改善に努める。	職 ④ 知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業や国内外の研修の改善に努める。 生 ① 千葉中の授業は楽しい。 生 ① 私は、授業に積極的に取り組んでいる。 生 ① 家庭で、授業の予習・復習に取り組む習慣が身についている。 保 ⑤ 学校は、揺るぎない学力を基礎として幅広く深い教養を育成する努力をしている。	94.1%	5.9%	0.0%	④ 各教科の学習過程においては、主体的で対話的な深い学びを実現するために、実験・ポスターセッション・グループワーク・プレゼンテーション・レポート作成を行うなど、各科目の特性に沿った活動を取り入れている。また全生徒一人1台のタブレットPC配布の実現により、各教科担当でICT教育の加速に向けて工夫と研究を続けている。これらの取り組みによって興味関心を高め、理解の深まりへとつながるよう努めている。ただ、生徒のアンケートの結果からは、授業に積極的に取り組んでいると答えながらも、家庭での学習習慣の定着に課題を感じている生徒が多くなることがわかる。				
		⑤ 思考を促す課題を工夫し、主体的・対話的に深い学びを実現する。	職 ⑤ 思考を促す課題を工夫し、グループ活動等を通して互いの考えを交流することで、考える力を育てる授業を行う。 保 ⑩ 授業の方法、教員の教え方について満足している。	88.2%	11.8%	0.0%	⑤ 知識の習得のみではなく、グループ活動などの学習形態を工夫したり、話し合い学習などの言語活動を充実させ、修得した知識を活用し思考を重ねる指導を、各科目の特性に応じ、それぞれ実施した。アンケートでは概ね肯定的ではあるが、さらに教科指導の充実を図りたい。				
		⑥ 授業研究等を通して常に授業改善を図る。	職 ⑥ 授業研究等を通して常に授業改善を図る。 生 ⑦ 千葉中の授業はわかりやすい授業である。 保 ⑩ 十分な準備に基づいた、生徒の知的好奇心を喚起する授業が展開されている。	64.7%	35.3%	0.0%	⑥ 保護者の授業参観を来校者を分散させながら年2回行った。また、県内の教育関係者の授業視察を複数回行った。しかし、今年度より、職員間の相互授業参観の強化週間を設定することから、通年で相互授業参観を行うことへ変更したことで、本校職員間の相互授業参観が実際に行われた回数は減ったようである。職員アンケートでは、相互の授業研究を通しての授業改善という視点で肯定的な回答が減ったと考えられる。				
		⑦ 授業研究等を通して常に授業改善を図る。	職 ⑦ 授業研究等を通して常に授業改善を図る。	64.7%	35.3%	0.0%	⑦ 保護者の授業参観を来校者を分散させながら年2回行った。また、県内の教育関係者の授業視察を複数回行った。しかし、今年度より、職員間の相互授業参観の強化週間を設定することから、通年で相互授業参観を行うことへ変更したことで、本校職員間の相互授業参観が実際に行われた回数は減ったようである。職員アンケートでは、相互の授業研究を通しての授業改善という視点で肯定的な回答が減ったと考えられる。				

生徒指導	1 生徒の自主性を育てるとともに、集団の一人としての自覚と責任感を持たせ、他者へ配慮する心と態度を身に付けさせる。	① ゼミ・生徒会活動を通して、学習や行事等に対して自主的かつ積極的に取り組む姿勢を育てる。	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職 ⑦ ゼミ・生徒会活動を通し、学習や行事等に対して自主的かつ積極的に取り組む姿勢を育てる。	88.2%	11.8%	0.0%	① 生徒・保護者はゼミ活動や各学校行事に対して概ね肯定的な回答をしている。また、職員の「ゼミ・生徒会活動を通しての自主的・積極的姿勢を育成する」という項目でも、概ね肯定的な回答をしている。ゼミ活動の項目に関しては、夏季休業中に校内での研究協議会を開き、研修と共通理解を図った結果が反映されたいと考えられる。生徒による中高合同体育祭に対する回答は、中高6学年での競技進行による、出場レース数の減少が否定的回答の一因になったと考えられる。また、合唱祭では、感染症対策を実施しつつ、例年のクラスメイト全員での合唱練習や教室での朝練習・放課後練習ができないなどの制約の中、取り組まざるを得なかったことで、十分な練習時間の確保や、学級での団結感や一体感を十分に感じられなかったことなどが要因として考えられる。	① ゼミ・生徒会活動や各種行事を更に活性化させるために、今年度夏季休業中に行った校内研修や会議の場での話し合いなどの機会を通じ、職員間の一層の研修や共通理解が必要である。また、各種行事では、感染症対策を実施しつつ行った上で生じた課題を来年度へ引継ぎ、より充実した行事の運営を目指す。
		② リーダーとして必要な基本的生活態度や規範意識等を身に付けさせる。	② 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職 ⑧ リーダーとして必要な基本的生活態度や規範意識等を身に付けさせるとともに、健全な批判精神を養う。	64.7%	29.4%	5.9%		
		③ 自他を互いに認め合うとともに、健全な批判精神を養い、能動的なフォローアップを育成する。	③ 職員、生徒、保護者、地域懇談会の意見及び交流活動の実施状況	職 ⑨ 自他を互いに認め合うとともに、能動的なフォローアップを育成する。	88.2%	11.8%	0.0%		
		生 ② 総合的な学習の時間「ゼミおよび千葉中アカデミア」	81.4%	17.3%	1.3%				
		生 ⑥ オリエンテーション合宿（1年のみ）	80.6%	16.8%	2.6%				
		生 ⑦ 国内語学研修（3年生のみ）	97.3%	2.7%	0.0%				
		生 ⑧ 伝統文化学習（2・3年生のみ）	94.6%	2.7%	2.7%				
		生 ⑨ 文化祭	93.4%	6.2%	0.4%				
		生 ⑩ 中高合同体育祭	88.1%	11.5%	0.4%				
		生 ⑪ 合唱祭	73.0%	19.9%	7.1%				
		保 ① 生徒は、学校生活に満足し、授業や行事に積極的に参加している。	90.7%	7.3%	2.0%				
		保 ② 学校は、授業や学校行事を効果的・計画的に進める努力をしている。	90.7%	8.7%	0.7%				
生 ⑤ 先生は、生徒の自主性、自律性を育てる努力をしている。	86.3%	13.3%	0.4%						
生 ⑩ あいさつや時間を守るなど基本的生活習慣や、マナーが身につくようになってきている。	83.6%	15.0%	1.3%						
生 ⑪ 清掃活動や教室の美化に積極的に取り組んでいる。	76.1%	23.0%	0.9%						
保 ⑫ 学校は、生徒の基本的生活習慣や、マナー等について、その確立に努めている。	82.0%	17.3%	0.7%						
生 ① 友だちとのふれあい	96.0%	4.0%	0.0%						
保 ⑥ 学校は、他人のいたみのわかる、うるおいに満ちた人間性を育成する努力をしている。	74.0%	22.7%	3.3%						
② 「リーダーとして必要な基本的生活習慣や規範意識等を身に付けさせる」という項目については、職員アンケート結果では低い数値である。挨拶の推進をしたいと答えた生徒もいた。	② 学習活動や生徒会活動、各種行事を通して、リーダーとして必要な基本的生活態度や規範意識等を身に付けさせる。挨拶推進運動は今年度後半から始まった。来年度も継続していく。								
③ 生徒は友だちとのふれあいに約90%の生徒が満足と答えており、「自他を互いに認め合うとともに、能動的なフォローアップを育成する」項目についても、職員の肯定的な回答が多い。	③ 引き続き、教育活動の様々な場面で生徒同士の関わり場を設け、このことによって自他を互いに認め合うとともに、能動的なフォローアップを育成していく。								

キャリア教育	1 本校のキャリア教育のあり方について共通理解を図り、キャリア教育の一層の充実を目指す。	① 本校のキャリア教育のあり方について、職員、生徒、保護者間で共通理解を図る。	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職 ⑩ 本校のキャリア教育のあり方について、職員、生徒、保護者間で共通理解を図る。	29.4%	70.6%	0.0%	① 職場体験が実施できなかったことで、職員アンケートの肯定的回答は低くなったと考えられる。生徒のほぼ全てが千葉高校へ進学する本校では、職場体験は生徒が自らの社会貢献性を学ぶ貴重な活動である。	① 高校本務等による特別授業や、大学の学部・学科調べ、理科特別授業(千葉大・医の協力)を通して、キャリア教育の推進を目指す。コロナ禍での職場体験を事業所が受け入れることが難しい状況は今後も続く可能性がある。敷地内、敷地外で行えるボランティア活動の推進により、社会貢献への動機に気付かせたい、教科道徳において、自らの生き方を模索することも改善策の一つとして挙げられる。
		② 近隣地域との交流を通して、社会の一員であることの理解を深めさせる。	② 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果、及び情報提供の内容と頻度	職 ⑪ 近隣地域との交流を通して、社会の一員であることの理解を深めさせる。	23.5%	76.5%	0.0%		
		③ 社会人講演会・職場体験・ボランティア等を通して、勤労観・職業観を深められるようにする。	③ 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果、及び情報提供の内容と頻度各種講演会の実施回数、参加人数及び実施状況	職 ⑫ 社会人講演会・職場体験・ボランティア等を通して、勤労観・職業観を深められるようにする。	35.3%	64.7%	0.0%		
		保 ⑦ 学校は、生徒の社会貢献の志を育み、自己を確立する基盤を育成する努力をしている。	79.3%	19.3%	1.3%				
		生 ① 近隣の地域をはじめ社会に目を向けることができる。	42.5%	56.6%	0.9%				
		生 ② 職場体験（3年生のみ）							
		生 ④ ボランティア活動	28.3%	68.1%	3.5%				
		保 ② 職場体験（2年生のみ）							
		保 ④ ボランティア活動	39.3%	54.7%	6.0%				
		職 ⑬ 1学年の「ことばの授業」では読売新聞の記者に指導いただき、保護者の方々へのインタビューを実施した。また、3学年の「理科特別授業」では千葉大学医学部の教授に指導をいただいた。しかし、全学年対象の社会人講演会は実施できなかったものの、アンケート後の実施であったため、その満足度は不明である。	③ 社会人講演会・職場体験・ボランティア活動をさらに充実させ、勤労観・職業観を深められるようにする。						
		保 ⑧ 学校外の講師による授業や体験学習	73.3%	26.7%	0.0%				
		生 ② 総合的な学習の時間「社会人講演会」							
生 ③ 学校外の講師による授業や体験学習	65.5%	34.5%	0.0%						

特色ある活動	1 総合学習のゼミのまとめである「千葉中アカデミア」を充実させる。 2 3年間の総まとめとなる卒論を完成させる。	① 3年間を見通したテーマと研究方法を設定させ、継続的な学習支援を行う。	① 全体発表会の実施とその内容の評価				① 総合学習での研究を1年間とし、「千葉中アカデミア」に向けて生徒は研究を進めている。これによって、生徒は調べ学習から仮説を立てた実験・検証の伴う研究へとレベルアップし、卒論へ向けて研究の仕方を学んでいる。しかし、生徒の中には温度差があり、研究を深められる生徒とそうでない生徒に二分されているのが現状であり、そうでない生徒の中に総合学習での研究を負担と感じている生徒もいる。	① 今年度実施した夏季休業中の総合学習のゼミに関する職員研修を来年度も実施し、指導方法についてなどを共有していく必要がある。今後も、今年度の成果と課題を整理し、計画的・継続的に指導に当たる。
		② 各生徒の研究についての生徒の自己評価及び顧問の評価の結果						